

活 動 記 録 書

開 催 日： 令和 7 年 7 月 3 日（木） 天候 晴	開催テーマ： 金沢の古刹薬王寺住職のお話を聞く
開催場所： 横浜市金沢区	記 入 者： 熊 谷 滋 子
参加人数： 会員 25 名 準会員 1 名 計 26 名	
実施内容（実施の項目、方法、効果・生家、宿題 など） コース： 金沢文庫駅（集合）⇒ 三宝寺（薬王寺墓苑）⇒ 墓地（薬王寺管理）⇒ 子の権現社 ⇒ 薬王寺（住職のお話し、拝観）⇒ 金澤八幡神社（解散） 今回は熱中症警戒アラートが発表されていないものの、とても暑い中での探訪となった。金沢文庫駅で集合し閑静な住宅地を抜け、野島、夏島が見渡せる道を通り三宝寺に向かう。金沢の急速な発展に伴い 1961 年に信者の倍増と寺門の興隆の為、墓苑を造り薬王寺別院三宝寺を開基した。そこから薬王寺管理の墓地を通る。ここは旧字名御所が谷的場「まつば」と呼ばれていた。御所が谷の名前の由来はいくつか有るが、現地の案内板には亀山天皇が滞在したという説が書いてあるが下向の記録はない。また「まつば」は北条氏が武芸を磨く的場（まとば）のあったとされる場所でその名が転化したとされる。 少し歩くと子聖大権現を祀る祠がある、子の権現社に着く。火伏せと足腰守護の神として多くの入道から信仰され、かつてはたくさんの草履が奉納されていたということだ。 次に訪れたのは称名寺赤門のすぐ前にある真言宗御室派の薬王寺。仏教ではお香で身を清めるとの事で、皆掌に一振りずつお香をいただく。こちらでは昇堂し住職のお話を聞く。このお寺は源頼朝に謀反を疑われ修禅寺で誅殺された、異母弟源範頼の霊を弔う為に建立され三叡山遍照坊と称されていたが、一時荒廃し室町中期に三療山薬王寺と改号される。本尊は範頼の念持仏として伝わる薬師瑠璃光如来で秘仏として祀られている。本堂内には継承された範頼の位牌、遍照房本尊大日如来、弘法大師像、聖観世音立像（鎌倉末期作）、横浜市指定有形文化財の絹本着色種子両界曼荼羅、そしてとても穏やかな顔と繊細な法衣の裾が印象的な、法衣垂下像形式の客仏木像地藏菩薩座像がある。境内には太寧寺殿五輪塔、大宝篋印塔の他、地域の石塔類も集められている。梵鐘は 1961 年に新造され、朝夕 6 時に時の鐘が撞かれている。住職のお話しでは地域に根ざしたお寺をという思いを強く感じた。 境内を見学した後、金澤八幡神社に向かう。祭神は応神天皇等四柱。鎌倉後期、称名寺造営の金堂の屋根を葺く為の檜皮を積んだ船が野島に着き、それを八幡宮の前で荷揚げしたという記録が金沢文庫古文書にある。1869 年旧号八幡大菩薩を金澤八幡社と改め氏子地域は金沢町、寺前となる。神仏混淆の名残りとして本地仏阿弥陀如来座像、八幡神坐像等の仏像が祀られていたが、現在は富岡八幡宮の宝物殿に保管されているとのこと。八幡神社の境内で解散する。	
参加者の状況・意見など： 歩いた道は日影もなくとても暑かったが、調子の悪くなる人もなく最後まで歩いて良かった。薬王寺で昇堂しゆっくり住職のお話を聞けて良かったと言う声があった。7 月は余り歩かずに、ゆっくりお話を聞くのも良いかもしれない。	
次回の予定： 令和 7 年 8 月 7 日（木）10 時 金沢公会堂多目的室 テーマ：DVD 鑑賞 「国宝へようこそ」 ・第 5 集 日月山水図屏風・第 6 集 春日大社	